

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第175号

ななえ古写真物語

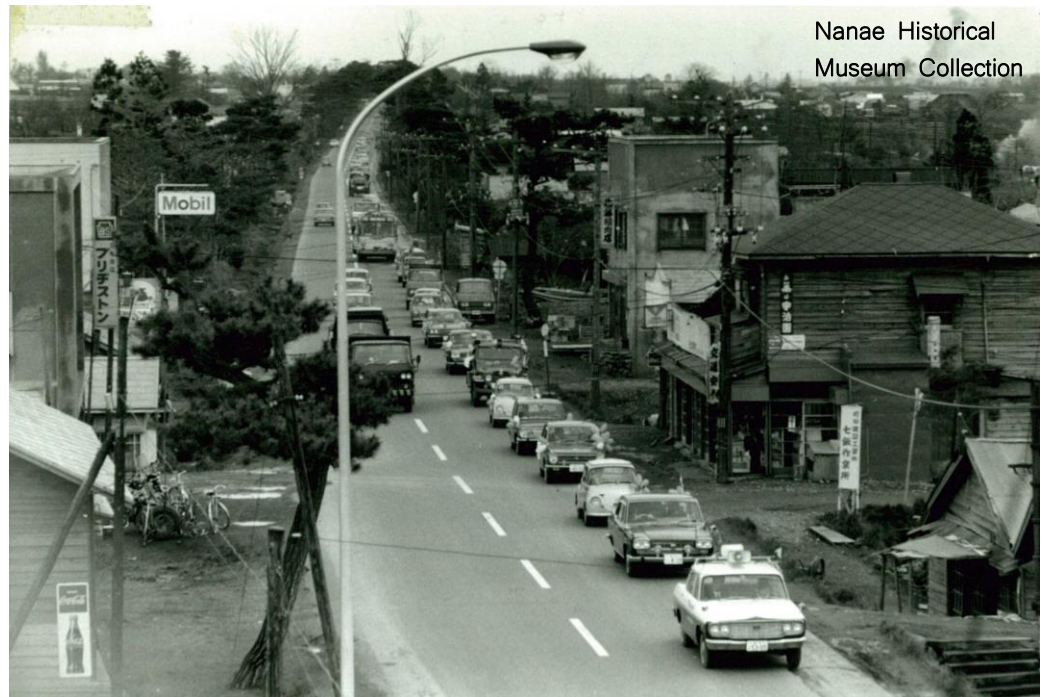
VOL.175

大中山地区の街並み

謎のパレード

昭和40年ころ

大中山地区



七飯町大中山地区。地名の由来や歴史についてはピチャリ第94号でも触れていますが、現在は宅地化が進み、町内でも住民が増加しているエリアといえます。ところが、歴史も古く人が多く住むようになったにも関わらず、当館で所蔵している大中山地区の古写真は国道5号を撮影したものがほとんどなので、それ以外の写真記録を収集することが課題となっています。心当たりのある方は、ご一報いただくと嬉しいです。

さて、連なる車の型式からも、ひと昔前の雰囲気を感じ取れると思いますが、この写真は昭和40年ころに撮影されたと考えられる国道5号沿いの様子になります。手前に写っている街灯の高い位置が目線となっている構図から、かつて大中山小学校前にあった七飯町消防第二分団（現在の大中山出張所あたり）の物見櫓（ピチャリ第94号写真参照）から撮影したものと考えています。また、立ち並ぶ商店を当時の地図と照らし合わせたところ、七飯町側から函館方面へ向かって撮影したものだということがわかりました。

明治期の大中山村の様子を「当時村中一帯に樹木が生い茂っていた」と『大中山四百年誌』で記されているように、沿道に広がる木々はその名残なのかもしれません。

写真中央を縦走している国道5号を見ると、車道の舗装化は完了していますが、ガードレールの姿が見当たらないので、まだ歩道が明確に区分けされておらず、しかも舗装ではなく土が踏み固められているだけなのがわかります。また沿道にならぶ商店も木造が目立ち、取り付けられている看板も、コカ・コーラや宇治園、ナショナルといった瑠璃びき（と思われる）看板がみられますし、電柱も木製が多く見られますので、やはり面影が残っていても現在とは様相が異なる時代が記録されているといえます。

ところで、この写真を選ぶ際に最も気になったのは先導車と思われるスピーカーを取り付けた車両を筆頭に、後続する10台ほどの車に風船が取り付けられ、パレードのように列をなしている様子でした。しかも、それらを追い越そうとして、トラックが車線を大きくはみ出して並走している様子は、現代で考えると、危険運転に相当するでしょう。仮にこの風船を取り付けた車たちが交通安全運動の一環としての行列だとしたら、かえって危険を誘発しているようにも見えますが、それを黙認する鷹揚な時代が、昭和の日本といえるのかもしれませんが、時代は令和となりました。どちらが暮らしやすいかは人によって違いますが、心のゆとりを感じる一枚でした。

15日 夜の博物館 第1夜

「夜の博物館」前期講座の第1夜は「身近な花との出会い方」と題し、南北海道自然保護協会の藤島齊氏にお話をいただきました。草花を擬人化して対話するという藤島氏の目線、和名を漢字表記で表すことで、花の特徴をより深く感じられるという感覚。美しく切り取られた草花の画像紹介。ただ記録するのではなく記憶に残す花との付き合い方に、参加者からも多くの質問があがり、思っている以上に多くの花が笑っていることに気づかされた講座でした。



25日 駒ヶ岳に登らず施設見学に

駒ヶ岳登山の予定だったジュニア探検クラブでしたが、前日に大雨が降ったので中止にして、北斗市と木古内町の郷土資料館の見学に行きました。①走らない②騒がない③資料に触らない④写真を撮る時は職員に尋ねる。というルールを伝え見学開始です。他の町の歴史に触れながら、気になる資料を描いたりメモしたり、質問したりしながら学ぶ子どもたち。登山できなかったのは残念でしたが、楽しい時間を過ごせたようです。



ロビー展を開催中です

歴史館では多くの昆虫標本を所蔵していますが、その中でも今回は七飯町内で捕まえた昆虫を中心に展示しています。マーキングしてある「アサギマダラ」、大沼で採集された「カブトムシ」、学術調査のために採集された「コガネムシ」、学芸員のコレクション「カミキリムシ」など、昆虫が好きな方には是非ご覧頂きたいです。関連する図鑑やルーペも置いています。フォルムや色、名前など、新たな発見があれば幸いです。




8月の予定

1	月
2	火
3	水 夜の博物館
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木 山の日
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土 ピチャリ第176号発行
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土 ジュニア探検クラブ
28	日
29	月
30	火
31	水

※8月の休館日はありません

harrowとhello

展示室の鬼ハロー。見学に来た子どもたちは鬼helloと勘違いしてしまうことも。harrowは砕土機。音だけ聞くと否めない。



編集後記 ~tawagoto~
 山の姿や雲の形、足下の花々の移り変わり、私たちは忙しさから、感じることを疎かにすることはないでしょうか。今日見たものは、明日も同じようになると、そう思うことはないでしょうか。今は、子どもの頃によく見たあの虫やあの花と同じ季節になかなか出会えないこともしばしばです。植物を採集し、標本に残すという仕事を続けていると、普段は見えていなかったものに心を奪われる時間があります。感じることは知ることよりきっと尊い。

Pichari

~ピチャリ~
 第175号
 令和4年7月20日発行
 七飯町歴史館
 〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3
 電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
 E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp